

ブルーカーボンワーキンググループの設立について

資料3

別紙のとおり、山本浩一委員から、ブルーカーボンワーキンググループを設立してはどうかと、設立趣意書が提出されました。

ブルーカーボンワーキンググループの設立について御審議をお願いします。

併せて、ブルーカーボンワーキンググループが設立された場合、ワーキンググループへの参加の可否について御回答をお願いいたします。

ブルーカーボンワーキンググループ設立趣意書

令和4年2月25日

山口大学 大学院創成科学研究科 山本 浩一

【設立提案の経緯】

最近、アマモ場のような藻場が、沿岸域において吸収される炭素（ブルーカーボン、BC）の貯留場所として脚光を浴びており、地域的な沿岸環境保全の取り組み補助の一環として横浜市と福岡市でBCを利用した事業が始まっていること、山口湾のアマモ場の消長について概要を第30回樫野川河口域・干潟自然再生協議会にて書面報告した。それに対して本委員会にブルーカーボンワーキンググループを設置して山口湾のBCに関する議論を進めるべきとの意見があった。

山口湾は、福岡市博多港のような、閉鎖的で高度に管理されている場合や横浜市のように人工的にアマモ場を造成する場合と異なり、天然のアマモ場が分布し、その消長が波浪や海洋環境に依存している。このような場合について保全活動を行うことによってクレジット化することが可能かどうかについてはいまだ議論の中にある。アマモの播種をおこなうにしてもその費用対効果は著しく低く、面積の増加の効果も判定しにくい。一方で天然の藻場を擁する河口域においても適用可能なBCの貯留量増加方法を確立すれば干潟再生活動資金源とするためのカーボンクレジット発行や、アマモ場の拡大によって生物多様性の増加（SDG14）も期待することができる。

また、日本全体としての沿岸域の炭素吸収源としての算定が将来的に行われる可能性もあり、山口湾において既に貯留されたBCの現存量の把握が必要となる。

そこで、山口湾におけるBCに関する議論・活動を開始すべく、ここにブルーカーボンワーキンググループの設立を提案するものである。

【目的】

天然藻場を擁する樫野川河口域におけるブルーカーボンの現存量把握、貯留量増加、クレジット化を目指した議論・活動を行う。

【構成員】

有志メンバー

【活動】

ブルーカーボンに関する勉強会（年間2回程度）

ブルーカーボン現存量把握・貯留量増加のための調査活動

ブルーカーボン貯留量増加方法検討会議（年間3回程度）上